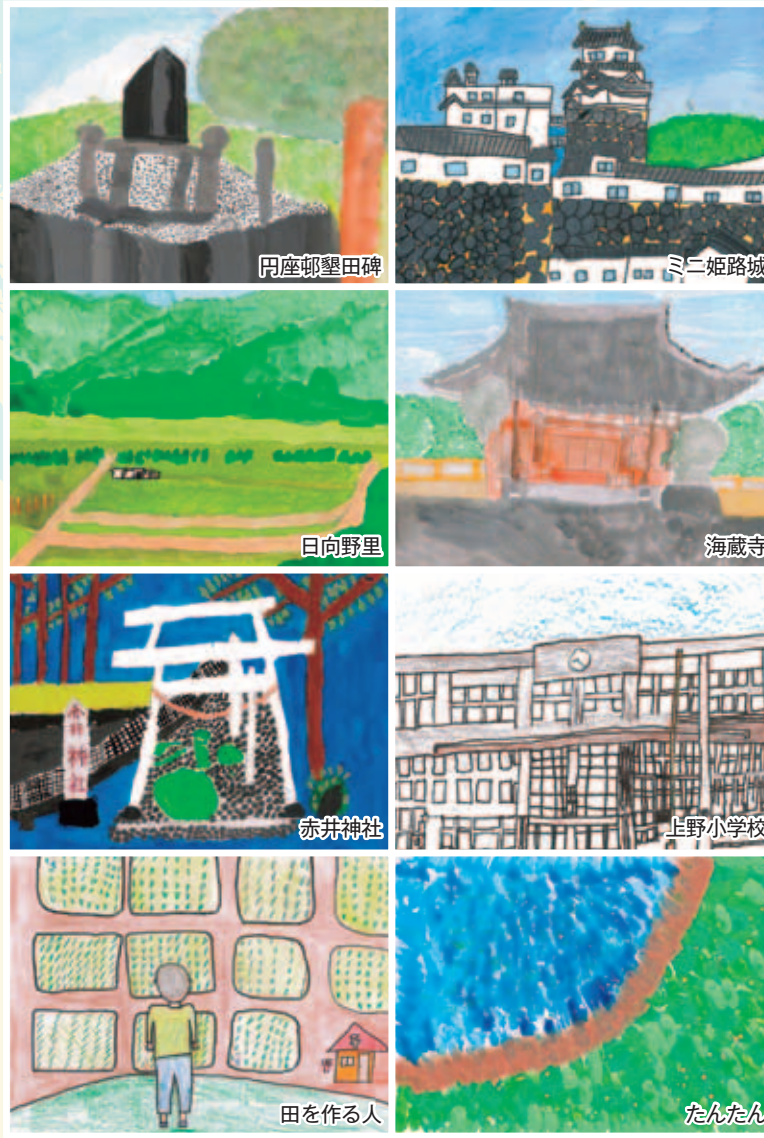


沼木の自然

沼木地区は三重県伊勢市の南西部に位置し、円座町、上野町、神菌町、横輪町、矢持町の5町で構成されている。湊流宮川に注ぐ横輪川が流れ、宮本武蔵が修行したと伝えられている猿蓑、龍が舞い降りると言われる神倉、神菌町にある神菌神倉などの山々に囲まれている。

上野小学校の子どもたちの「沼木」の絵（エリアのイラストをきむ）



1 赤井山新田と2 神菌神倉



1 神倉 (標高492 m)

写真の右前方に神菌神倉、左後方に神倉が見える。神倉の度会町川口の斜面には伊勢神宮の社殿の屋根を葺く「かや」(スキ)を育てている霊場がある。上野町側でも以前はかやを育てていて、地元の人々は神倉を「神宮山」と呼んでいた。伊勢神宮の資料には大正元年(1912)から上野町に2ヶ所の霊場があったと記されている。



2 鷺嶺 (標高548m)



鷺嶺とも呼ばれる。外宮のは南約7kmに位置する。伊勢市では、朝熊山に次いで2番目の高さである。



円座エリア

米山新田には広々とした田畑が広がっている。稲作の水利のために、江戸時代に横輪川から約7.6kmの水路を拓いた米山宗隆、米山宗持の献身的な事業のおかげである。夏の8月15日には、夜更参で江戸時代から続くかんこ踊りが行われる。

3 正覚寺と庚申さん

和歌山藩円座組の大庄屋であった米山宗持が1811年開いた寺といわれている。かんこ踊りが境内で毎年、盆(8月15日の夜)に行われている。道はさんである庚申塔は伊勢市で最古と云われている。天正8年(1580)の銘。



4 米山新田・弁天さん

昔、円座町は少し高台のため、水利が悪く、ほとんど荒れ地となっていた。和歌山藩円座組の大庄屋であった米山家4世の宗隆は1689年に水路を起し、7年後に竣工した。これにより約7haの良田を得た。さらに、9世の米山宗持はその水路を荒れ地に見て、1829年、横輪川より約7.6kmの水路を開き、新田10ha余、廃田27ha余に灌漑した。しかし、宗持はこの工事により生じた大きな借財の責任を負って1842年自刃した。借財の返済は1876年まで要した。横輪で横輪川から取水し、「米山用水」は上野町を巡って円座町まで流れている。円座町の町中にも米山用水から続く水路が走っている。昔は生活用水として、野菜を洗ったり、顔を洗ったり、畑の水やりに使ったりしていた。米山用水の水は最後は宮川に流れ込んでいる。先人の知恵・刻苦や犠牲をいとおぼえ心に刻みたくも学ぶところが多い。「円座郷土館」の近くには弁天さんの小さな社(写真の左後方)がある。



円座のかんこ(羯鼓)踊り



かんこ踊りは円座町正覚寺境内で盆(8月15日の夕刻6時半ごろ)に大きな火が焚かれ行われている。夏の風物詩として、宮川流域の円座をはじめ、佐八、御前などでもかんこ踊りが行われている。鼓を馬皮で作り、肩から下で両手でそれを打ち鳴らして念仏を唱えながら踊る。「羯鼓」である。なまこ「かんこ」となった。円座のかんこ踊りの起源は慶安の初期(1648～1652)頃といわれている。踊り手は、頭に「しゃぐま」という被り物をつけ、顔まで覆い、白黒の着姿。腰に「シモタ」と呼ぶ竹筒、足は脚絆を巻いて、足袋、草履を履く。踊りは先祖供養の念仏踊り、五穀豊穡と続けられる。一時途絶えたが、1964年に復活し、「円座のかんこ踊り」は三重県の無形民俗文化財に指定された。色鮮やかな飾り物・衣装・踊りなどで演出される伊勢の「風流の芸能」として、誇りを持って伝承しよう！



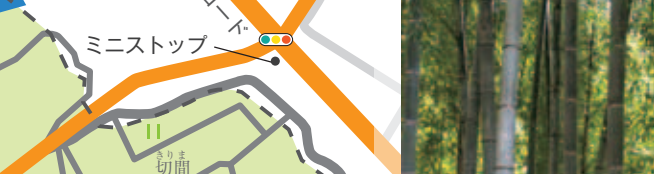
神菌エリア

いままでは、竹林と神菌 神倉で特徴づけられた山間部のひっそりとした小さな地区であったが、現在赤福の工場建設が始まった(2020年現在)。今後、神菌エリアは沼木地区で最も劇的な変貌を遂げることになり、大きく期待が膨らむ。



神の恵みを受ける 神源郷

神源郷といえは竹林。



5 神菌神倉 (標高383.6 m)

神菌町の境内の木は「かみだけ」と呼んでいるが、正式な名称は不明である。このマップでは、上野町と度会町の境にある「神倉」(標高492m、写真の左後方)と区別して、「神菌神倉」と呼ぶことにする。頂上には国土地理院の三等三角点がある。中腹の黒岩から宮川流域が一瞥できる。

上野エリア

上野エリアは上野町、昭和苑、サンパークタウン、いせ上野台で構成される。沼木地区で唯一の上野小学校がある。東に鷺嶺に続く山々、南西に神倉がある。その間に沖、下沖、田口沖、松林沖、大津野沖、日向沖などの田畑が広がる。(沖：広々とした田畑)

7 日向

絶好の散歩道！横輪川沿いのならかな斜面に棚田があり、道沿いにアジサイが何本も植えられているので、特にアジサイの咲く頃は素晴らしい！



8 たんたん

横輪川の堤のあたりが「たんたん」と呼ばれている。名前の由来ははっきりしない。地元では、夏になると、川遊びの場所として知られている。子供は大人同伴が必須！

9 沼木神社

沼木神社は、上野町内にあり、神社の合祀を進める国や県の施策を受け、これまで矢持、横輪、上野、神菌、円座の各村にあった神社を合わせ祀っている。子孫繁栄・五穀豊穡・夫婦円満・家内安全などを祈える霊域あらたかな神社として今日に至っている。



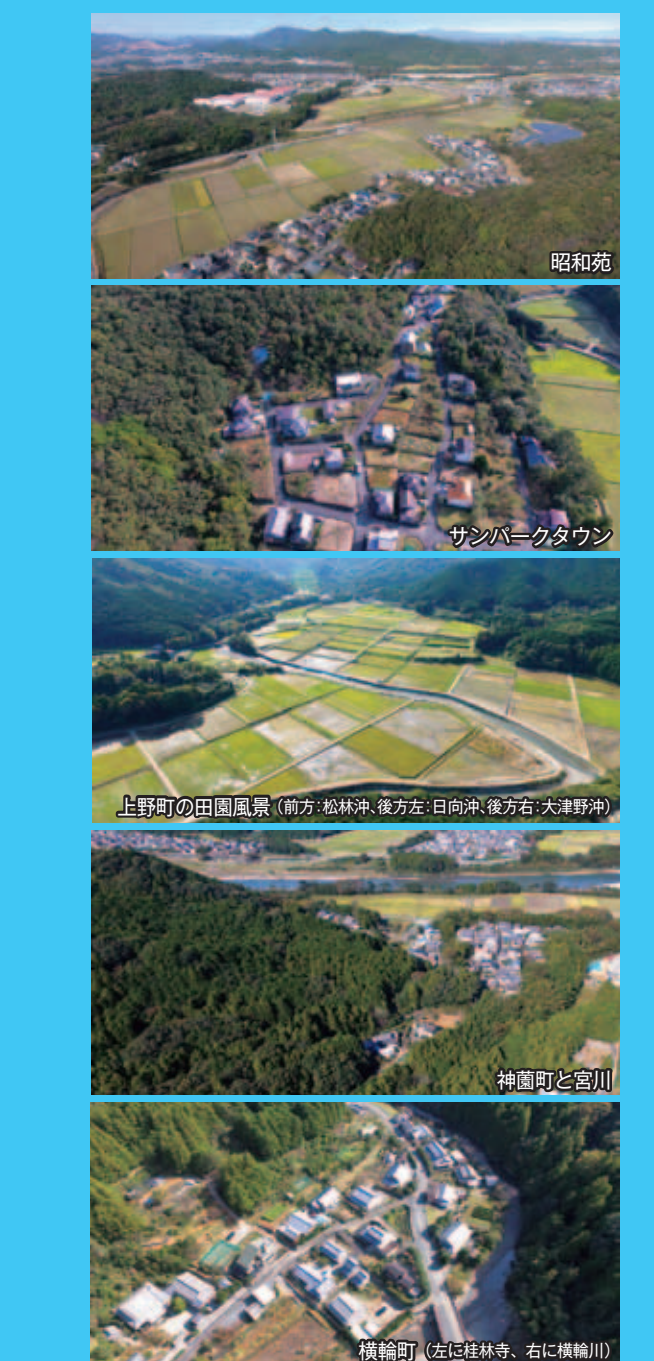
10 赤井山 (赤井さん)・赤井神社

上野町にある赤井山、地元の人たちは、この山に崇敬と親しみを込めて「赤井さん」と呼んでいる。上野小学校のすぐ近くに登り口があり、赤井神社の標柱と高層石や灯籠が立てられているので分かりやすい。本殿の脇に清水をたたえた井戸があり、水がかることはないとされている。また、赤井さんは古くからお産の神様といわれている。社に茂るヤマモモの木はこの宮の象徴でもあり、拝殿の屋根のすみを飾る瓦もヤマモモの実をかたどっている。古来ヤマモモの木は悪魔を払う霊木としてあがめられ、桃太郎のようなたくましい子孫の安寧を願ったと思われる。ボランティアの方々により、赤井神社の参道から散策コースが整備されている。また、頂上の周りの木も伐採されて、円座方面の眺めがよくなっている。

11 海蔵寺

上野町の中心に曹洞宗の海蔵寺が建立されている。海蔵寺は、寛文5年(1665)に本堂が建立された。2009年6月18日早朝、火災により全焼という事態が発生した。その後、僧家や信徒によって1年半かけ、新しい本堂は平成23年(2011)に再建された。

空から見た沼木



横輪・矢持エリア

横輪町・矢持町は一字郷と呼ばれてきた。横輪町では石積みが至る所で見られ、特に桂林寺の石積みが有名である。春の横輪桜、初夏のゲンジボタル、晩秋の横輪いもと自然の楽しみがいっぱいある。矢持町は下村、鷺嶺、上村、床(ノ)木4地区から成る。平家の落人伝説があり、鷺嶺には平知盛の菩提を託った久昌寺がある。また、三重県の天然記念物である鷺嶺の水穴、覆盆子洞が山中にある。

横輪桜

全国でも横輪川にのみ存在することから、この地域では「横輪桜」と呼ばれてきた。横輪桜は江戸時代後期に、桂林寺にあったものを村人が持ち帰り、増やしたものとされている。この桜は一重八重咲で、雄しべが変化した花びらが1枚以上ある花が混在し、12枚以上の花びらをもつ花もあり、年を重ねるごとに花数が増し、樹全体が花でおおわれるようになる。開花時はソメイヨシノより数日遅れるが、新芽が伸び始めると同時に、濃いピンク色で香りのある大輪の花を咲かせる。近年、専門家の調査により今までに知られていない新しい園地品種であることがわかった！毎年、4月に「横輪桜まつり」が「横輪」周辺で開催されている。また、横輪桜の葉で染めた染料が販売されている。綿に染めると、驚くべきことに横輪の花と同じピンク色に染まる。

12 郷の恵「風輪」

横輪町の活性化を目的とした直売施設「郷の恵「風輪」」は、平成18年にオープン。特産品である横輪いも、地産産品(米・野菜・花・手作り加工品など)の販売・軽食(即平家粥、横輪いもとり伊勢うどん他)。

所在地：伊勢市横輪町586番地(横輪公民館) ☎0596-39-1741
開館日：毎週火曜日・水曜日・金曜日・土曜日・日曜日・祝日(年末年始を除く)
午前9時～午後5時

